

ひとつ上の ステージへ

シーバスにこだわり続けた
アピア渾身のフラッグシップモデル

Foojin'AD

AD=Accuracy & Distance



ロッドは軽ければ軽いほど良いのか？ そこには大きな落とし穴があるのではないかな？

ややもすると軽さを追求するあまり、新工法や新たなマテリアルの可能性を否定することになるのではないかな？

Foojin'Z クワトロコレクションにおいてアピアは四軸カーボンの採用を決める。

現時点では軽さの追求とは逆方向への決断をしたことになる。

この事実は今後のロッド開発の進むべき方向として、軽さの追求ではなく、ブランク本来の性能を上げることにプライオリティを置いたということである。

Foojin'ADの開発の着手にあたり、我らアピアテスターの三人は迷わず

四軸カーボンマテリアルの採用と、さらなる研鑽が今後のシーバスロッドの発展につながると合意した。

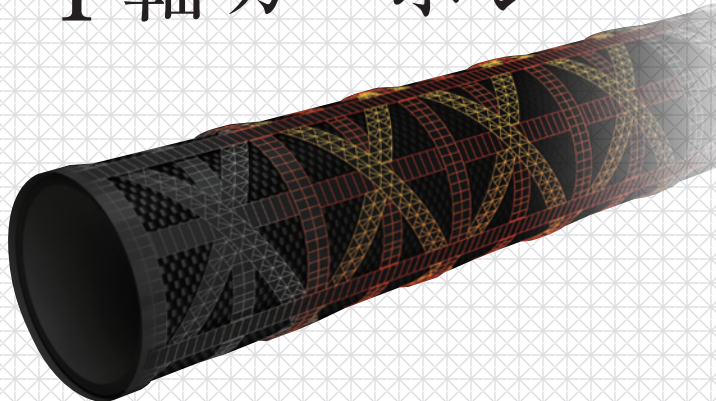
新たなプロジェクトでは四軸+W.C.Wという新機軸を打ち出すことにしたのである。

Foojin'ADがシーバスロッドをさらなる高みへと導くはずである。

text by RED中村

圧倒的な飛距離と操作性を実現する唯一無二のブランク

4 軸 カーボン

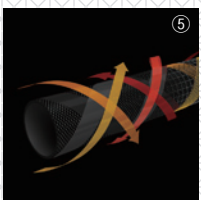
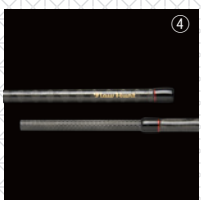
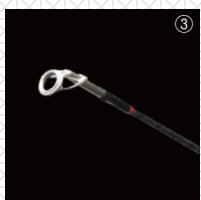
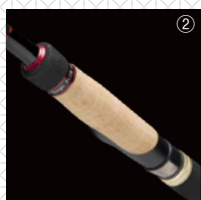
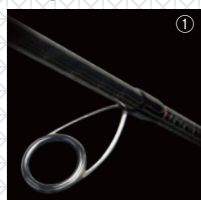


STRUCTURE (構造)

ADブランクの特徴:従来の高弾性ロッドは、ハイテーパーのマンドレル(芯金)にカーボンシートを巻くことによって軽さとハリを出していた。だがその反面、その構造は高弾性になればなるほど強度の問題が付きまとっていた。

アピア新開発のADブランクは、アピアが長年追求してきた“飛距離”重視のブランクを更に進化させることであった。そこで従来の構造を大きく転換させるべく検証を繰り返し、まずは従来のハイテーパーのマンドレルから、逆のナローテーパーのマンドレルを採用。そしてブランクは更に細身に設計し、超軽量の46t高弾性カーボンシートを約1.4倍(平均値)取って肉厚に巻き上げたのだ。結果、我々も想像しなかったほどに強度、トルク、感度が飛躍的に向上し、驚愕に値する高反発のブランクが誕生した。

EQUIPMENTS (装備)



- ①Fuji チタンフレームKガイド採用(糸絡み軽減)
- ②軽量AAAコルク素材を採用(感度を上げるために)
- ③APIA独自のチタン小口径Kガイドシステム
全機種搭載
- ④印籠継ぎジョイント仕様
- ⑤W.C.W.(ダブルクロス・ラップ)
C.W.F.よりも細いテープをX状にダブルでブランクに巻きつけてネジレを補強

MATERIAL (素材)

ブランクを曲げることにより発生するネジレ現象は、カーボンブランクには必ず起こる宿命のようなもの。では、この“ネジレ現象”が起こるとどうなるのかな？

まず、曲がることによりブランクに本来伝わるパワーが、ネジれる方向に逃げていきパワーロスとなる。またキャスト時にはネジレ戻りが起こり、キャスト精度が著しく低下する。

実は今までブランクのネジレについては、さほど取りざたされることはなかった。というのもカーボン繊維が縦方向(曲げ剛性)と横方向(つぶれ剛性)に入っていれば、ある程度ネジレに対する剛性が保てていたからだ。だがこの2軸に対して、さらに繊維を45°に配することにより、これまでよりも極端にネジレを抑えることに成功した。この「4軸カーボン」をロッドのエンジン部ともいえるべきバット部分に配することにより、飛距離、アキュラシー、パワーと、ほぼすべての基本性能が底上げされた。

曲げ剛性 つぶれ剛性 ねじれ剛性



曲 げ 剛 性

カーボン繊維を縦方向に配することで、しなりにくくなり、ロッドの硬さを出します。

つ ぶ れ 剛 性

ロッドに荷重がかかり、しなると断面が扁平になっていき、限界点を超えると繊維が破断して折れます。カーボン繊維を横方向に配することで、つぶれ剛性を高めて強度を出します。

ね じ れ 剛 性

カーボン繊維を45°方向に配することで、ねじれ剛性が高まります。そうすることにより、パワーロスが抑えられ、ルアーの飛距離アップやリフティングパワーが高まります。また、ねじれない分アキュラシーも向上します。

時流に流されないAPIAプロスタッフが創造した最強のFoojin'ラインナップ

[村岡昌憲プロデュース]

湾奥のよりシビアな近距離ゲームを制する 唯一無二の存在

Eve*Run 610

イブラン610:カーボンマテリアルは飛躍的に向上し、技術の進化も相まって完成した「2代目イブラン」はまるで別物。ネジレを徹底的に排除するアピア独自の4軸+W.C.W.のブランクが、よりシビアな近距離港湾ゲームを支配する。

[村岡昌憲プロデュース]

フィールドは無限大 レギュラーテーパーの万能ロッド

CROSS+IMPACT 72ML

クロスインパクト72ML:コアなボートシーバサーに圧倒的な支持を受けたクロスインパクトが、4軸+W.C.W.を纏い復活。レギュラーテーパーのブランクから繰り出されるジャークのキレは秀逸。ボートからオカッパリまでこなすスーパーマルチロッド。

[村岡昌憲プロデュース]

鬼掛けティップ搭載! 湾奥エキスパートに捧げるアスリートモデル

Neon Knight 85LX

ネオンナイト85LX:湾奥シーバスロッドのスタンダードにして元祖、「ネオンナイト」が最もねじれに強い最先端マテリアルを纏ってリニューアル。フッククラス〜ランカーシーバスまであらゆるターゲットを一網打尽にする。

[RED中村プロデュース]

芯から生まれ変わった シャローウェーディング対応モデル

Flow Hunt 89ML

フローハント89ML:ブランクのネジレを排除し、少し硬めのセッティングながら、適度なしなりでスイングを加速させる。よりしなやかでシャープなキャストングを実現。

[村岡昌憲プロデュース]

湾奥激戦区必携! 遠距離ピンポイント爆撃モデル

Night Hawk 91ML

ナイトホーク91ML:アピアの湾奥ロッド、最長レンジス「ナイトホーク」がついにADで登場。ナイトホークの代名詞でもある“超短グリップ”は、激戦区の港湾を制するロングディスタンスの証。4軸+W.C.W.で武装した。

[濱本国彦プロデュース]

ミノー〜鉄板系まで幅広く対応 常識はずれの飛距離で撃ち落とす

Angel Shooter 93MLX

エンゼルシューター93MLX:河川のミノーイングから、ディゲームの鉄板系やバイブレーションまで幅広いシチュエーションにマッチするモデル。全体的に癖のないレギュラーファーストアクションが、抜群の飛距離をたたき出す。

[村岡昌憲プロデュース]

極細PEシャローフィネス対応 ウェーディング最速モデル

Shallow Finess 96LX

シャローフィネス96LX:キャスト時の高切れを防止するため、テーパーはミディアムスロー、ガイドは小口径Kガイドを採用。手元からのしなりでブランクを長く加速し、強烈な弾き感で最大級の飛距離を実現。※しなりを出すために、シャローフィネスのみ4軸カーボンを使用しておりません

[濱本国彦プロデュース]

モンスターを仕留める為の究極“ガチンコ”パワーロッド

Beast Brawl 95MH

ビーストブrawl95MH:メーターシーバスや巨大アカメを仕留めるため、濱本国彦が試行錯誤し、完成させたモデル。ロングレンジの9フィート5インチながら、ネジレを防ぐ事でパワーロスを軽減。運動性と操作性を高め、パワーと飛距離を追求した。

[RED中村プロデュース]

磯マル・サーフを攻略する 驚異の飛距離と操作性をもつマッスルブランク

PODEROSA 100M

ポデローサ100M:磯やタフコンディションのサーフをターゲットにしたモデル。キャストング性能に優れ、回遊性の強い磯マルに抜群の効力を発揮する。

[RED中村プロデュース]

アゲインストを切り裂く 磯ヒラ専用パワーロッド誕生!

NEW BACC:III 111MX

バックスリー111MX:風神の磯のヒラスズキモデル「バックニア」の3代目がADとして登場。4軸カーボンで補強されたバット部は、風速10M以上の向かい風をも切り裂く驚異のキャスト性能を発揮し、より細身になったブランクはキャスト時の風の抵抗を大幅に軽減。磯にこだわり続けるRED中村渾身の作。



NIGHT HAWK 91ML Touch the ultimate of master secret

SPECIFICATION

モデル	全長 (m)	仕舞寸法 (cm)	標準自重 (g)	先径／元径 (mm)	ルアー重量 MAX (g)	ライン MAX (PE)	本体価格 (円)税別
EVE-RUN 610	2.08	180	116	1.6/12.8	24	1.2	38,500
CROSS IMPACT 72ML	2.18	112.5	111	1.65/9.5	24	1.2	40,500
NEON KNIGHT 85LX	2.57	132	122	1.55/11.6	28	1.5	42,000
FLOW HUNT 89ML	2.67	137	134	1.7/11.8	34	2.0	45,000
NIGHT HAWK 91ML	2.77	141.5	161	1.6/11.2	30	1.5	47,000
ANGEL SHOOTER 93MLX	2.82	144	167	1.8/10.7	36	2.0	49,800
SHALLOW FINESS 96LX	2.9	148	140	1.8/12.5	32	1.5	43,800
BEAST BRAWL 95MH	2.87	147	186	2.0/14.5	45	2.5	51,800
PODEROSA 100M	3.05	156	190	1.85/15	43	2.5	52,800
BACC:III 111MX	3.38	172	250	1.95/15.3	43	2.5	57,000

※カーボン含有率は全て99.6%。総数は全て2本 ※EVE-RUN 610のみ1+バットグリップ仕様

SITUATION

モデル	ボート	港湾	河口	干潟	堤防(ディゲーム)	サーフ	磯マル	磯ヒラ
EVE-RUN 610	◎	◎						
CROSS IMPACT 72ML	◎	◎						
NEON KNIGHT 85LX		◎	○	○	△			
FLOW HUNT 89ML		△	◎	◎	○	○		
NIGHT HAWK 91ML		◎	○	○	△			
ANGEL SHOOTER 93MLX		△	◎	○	◎	◎	△	
SHALLOW FINESS 96LX		△	◎	◎	△	△		
BEAST BRAWL 95MH			◎		○	○	○	△
PODEROSA 100M			△		○	◎	◎	○
BACC:III 111MX					○	○	◎	◎



NIGHT HAWK 91ML [ナイトホーク91ML] by 村岡昌憲

釣り人のキャスト範囲外にいるフレッシュな魚を捕るというコンセプトで誕生したナイトホーク。必要なのは遠距離ピンポイント爆撃。東京湾奥の魚はやっぱりシビアである。レンジは9フィート1インチに決まった。僕自身が片手でジャークをしたり、バックハンドで投げたりする事ができるのがこの長さだった。飛距離を出すためには柔らかく、正確性を出すためには硬く、という二つの条件を煮詰めた前作は第好評を博した。そして今作は、ネオンナイトの「超鬼掛けティップ」をナイトホークにも搭載した。4軸カーボン技術の発達により、飛距離はさらに伸びたうえに、アキュラシー（正確性）もかなり良くなった。そして魚が掛かった後はティップが針先を掛け、ロッド全体が曲がるようになって魚の引きを受け止め、非常にバラシが減ったのだ。正当なる進化を遂げたナイトホーク91ML、2012年も僕のメインロッドとして日本中で活躍するだろう。

NEON KNIGHT 85LX [ネオンナイト 85LX] by 村岡昌憲

「ネオンナイト」この名前を聞いて過去に思いを巡らせる釣り人は多いと思う。ナイロンライン全盛期に発表された風神ゼータ83Lネオンナイト。APIAお得意の飛距離重視ブランクスに、超鬼掛けティップを搭載した初の変態テーパーシーバスロッド。そのネオンナイトが風神ADとして生まれ変わった。前回同様担当となった僕の思いは一つ「5年の時を経た現在の素材技術でネオンナイトをさらに仕上げる」である。飛距離重視、超鬼掛けティップというコンセプトをさらに突き詰める。開発の方向性は実績が正当性を示しているのが苦勞はなかった。そして素材の進化は圧倒的な軽さをもたらし、鬼掛けティップを超える超鬼掛けティップを実現した。正常進化したこのロッドを持つオーナーは、スズキ釣りをPE全盛期の時代へと切り開いたAPIAのスーパーロッド、ネオンナイトの後継者である。

FLOW HUNT 89ML [フロウハント 89 ML] by RED中村

私が最初に着手したモデルは「FLOW HUNT」。言わずもがな、干潟やその他、あらゆるシャローフィールドに対応するウェーディング用シーバスロッドである。全国的にシャローランナーと言えば125mmがスタンダードなルアーサイズとなるが、昨今の状況を加味すると100～110mmというルアーサイズを使用する場面も多くなってきた。新たに採用した4軸+W.C.Wという手法はキャスト時の初速が飛躍的に高まった。これにより125mmサイズも100mmサイズも同じく速いスピードでルアーが射出され、同時に安定した飛行姿勢を確保することに成功している。また、強靱なバットセクションは遠距離でのヒットをも確実にフックアップさせることが可能となった。ハイプレッシャー下のあらゆるメジャーポイントでは遠距離のバイトを確実に拾い上げる能力が欠かせないものとなる。FLOW HUNTはシャローゲームの新たな可能性と発展性を追い続け、常に新スタイルを提案し続けなければならない。

BACC:Ⅲ 111MX [バックスリー 111MX] by RED中村

ヒラスズキは、そのイメージから荒磯の美味な釣りだと思っている人は多い。それは全くの勘違いだ。マルスズキに比べて捕食半径が極めて狭く（ルアーを追う距離が短い）神経質で視力の良いヒラスズキには、サラシが広がる瞬間に、ここぞというタイミングでルアーを置きに行くことが必要だ。その表現が相応しいほどにシビアである。そして強風下のキャストは、ロッドが捻じれブレが発生する。手元のブレは竿先で増幅されミスキャストを誘発、11ftを超えるロングロッドは8ftで生じるブレとは大きく異なり、大きなパワーロスとなるのだ。フロウハント、ボデーローサの開発を経て、4軸+W.C.Wの特性をよく理解したつもりであったが、多くの実釣テスト中、アゲインストの風が吹き荒れる中で新しいバックスリーの「捻れない凄さ」を自らが体験することになった。このロッドはアングラーのキャストパワーを確実にルアーに伝播し「切る」という表現が最も相応しい生きた軌道を描いてルアーが飛ぶ。それだけでこのロッドの凄さを理解できる。バックスリー、このロッドは振れば頭でなく心で理解できるはずだ。



ANGEL SHOOTER 93MLX [エンゼルスシューター93MLX] by 濱本国彦

繊細さに重点を置いたロッド、テクニカルゲームに特化したロッド。パワーに物を言わせるロッド。その中でエンゼルスシューターに一体何を求めるのか？ このロッドは、例えばラムタラを使った「超ナチュラルドリフト」、ミノアのアクション系、鉄板やブレードを使った港湾の遠投リールリング系、リフト&フォールの釣りも楽々こなしてしまう。これらの多種多様なゲームで高い順応性を見せるのが大きな特徴だろう。優雅なロッドの曲がりを楽しむ、飛距離の伸びに優越感を感じる、そして水の流れやルアーの動きを敏感に感じられるADシリーズのブランクス。アングラーがロッドとの一体感を得られる事はとても大きなアドバンテージであり、安心感に繋がるのだと思う。マルチパーパスとも言うべき「素直さに特化した」このロッドがアングラーの文字通り右腕となるだろう。

BEAST BRAWL 95MH [ビーストブrawl 95MH] by 濱本国彦

ビーストブrawlは、三代目よりボクのテスターモデルとして熟成を重ねてきたロッドである。モンスターと正面からガチンコファイトできるいわゆる剛竿であり、つまりボクの得意とするスタイルなわけだが、今回のADは、ビーストの血統である「力強さ」に「しなやかさ」を付加した進化形である。ティップは細身のブランクスを二重のクロスラッピングしたW.C.Wで補強してより筋肉質に、バットガイドからグリップ方向へは四軸カーボンが強力な剛性を発揮するように仕上げている。新しいビーストブrawlは限られたタイミングで使用する力技一辺倒のロッドではなく、メインロッドとしても使える汎用性の高さを見せ、そして来たるべき時には野獣のパワーを開放する。モンスターは何処に潜んでいるか分からない。「普段の一匹」は必ず「感動の一匹」に繋がっているのだから。